十月十八日午後五時、

65

ちと亀山石巻市長、行政 関係者が集まりました= 室に、いしのまき寺子屋 宮城県石巻市役所の庁議 こどもクラブの子どもた

東日本大震災 圏域創生NPO センター事務局長 太田美智子さん

三年生までの二十一人

小学校一年生から高校

学用品・玩 の日、家族 具も全てな あそび場・ や友人をな に通ったあ くし、学び 舌や家を、

た。

り開くことでもありまし

ジオラマにして市長に手 渡しました。門脇小学校 に一年かけて取り組み、 の取り組みは、未来を切 の痛手と向き合いながら

地区の未来のまちづくり 痛手を受けた南浜・門脇 津波と火災の大きな 年後、二十年後自分たち して取り組みました。心 が大人になった時を想定 ジオラマづくりには十

らが避難した体験を検証 た。そして、遊歩道は彼

た。

未来のまち ジオラマに

遊ぶこともできません。 市計画も盛り込みまし は大学の先生に学んだ都

は、

「ほっとした」「す

りました。幾度も話し合 い、提言としてまとめ、 市長に伝えました。 彼ら

び、先人が津波災害を後 者から地域の歴史を学 にそれが生かされていな かったことも知りまし し配置しました。 世に伝えてくれていたの また、石巻の地史研究 考え行動する第一歩とな 経験は、市民として自ら

という形で表現しまし た。防災の意志は防潮林 ったのです。

水族館・レストラン。思 う存分遊べるスポーツゾ

た。

このジオラマは、子ど

にする音楽館・映画館・

震災で痛んだ心を元気

興に取り組む「結結プ 奨励会」と、被災地の NPO法人「女子教育 女性たちが協力して復 得て、掲載しています。 ロジェクト」の協力を この連載は、東京の

スメートと 自然を学ぶ場に。道路に

プロセスそのものでもあ

苦しみながら立ち上がる もたちが震災以降もがき

下校後クラ た。道草も くしまし

たエリアはそのまま残し る博物館。湿地帯に戻っ する科学館。震災を伝え ーン。津波や地震を研究

わかりません。しかし、 のように反映されるかは っきりした」と、成し遂 し、首長に届けるという 自分たちで考え、表現 げた安堵を言葉にしまし 子どもたちの意見がど